

週間展望(6/13~6/19)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

目次（2022/6/13号）

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定：FOMC・日銀金融政策決定会合が注目	・・・ P 3
■ 前週Review：インフレ長期化懸念高まる	・・・ P 4
■ ドル円：20年ぶりの円安ドル高水準	・・・ P 5
■ 金：200日移動平均線維持	・・・ P 6
■ 白金：株価下落を嫌気	・・・ P 7
■ ゴム：上海のロックダウン再開懸念	・・・ P 8
■ 穀物：高温乾燥懸念	・・・ P 9
■ 原油：株価下落は弱気も、需給タイト感強い	・・・ P 10
□ 騰落率（年間・月間・週間）	・・・ P 11
□ 米ガソリン小売価格・米CPI	・・・ P 11
□ ETF（金・白金）・EIA原油在庫	・・・ P 12
□ USDA生育進捗率・USDA作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・期末在庫率	・・・ P 13
□ CFTC建玉明細・・・ P 14～15 （ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金） （NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン）	

CX週間展望（6月13日～）

【週間スケジュール(6月13日～6月19日)】

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1	2	3	4
			ユーロ圏失業率 米 製造業PMI 米 ISM製造業景気指数 カ ナダ中銀政策金利	米 ADP雇用者数 米 耐久財受注 米 製造業新規受注 OPECプラス閣僚会議	米 雇用統計 米 ISM非製造業景気指数 中 休場（端午節）	
5	6	7	8	9	10	11
	中 財新サービスPMI	米 貿易収支 豪 豪中銀政策金利 日 骨太方針2022閣議決定	日 経常収支 日 貿易収支 日 GDP ユーロ圏GDP 米 卸売在庫 OECD世界経済見通し	中 貿易収支 ユーロ ECB政策金利 OECD閣僚会議（～10日） UNCTAD世界投資報告	中 消費者物価指数 中 生産者物価指数 米 消費者物価指数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	
12	13	14	15	16	17	18
第12回WTO閣僚会議 （～15日、ジュネーブ）	日 景気判断BSI	日 設備稼働率 日 鉱工業生産 ユーロ圏鉱工業生産指数 米 生産者物価指数 米 FOMC（～15日）	日 機械受注 中 鉱工業生産 中 小売売上高 米 小売売上高 米 NY連銀製造業景気指数 米 FRB政策金利 米 対米証券投資	英 英中銀政策金利 米 フラタレミア連銀景況指数 米 住宅建築許可件数 米 住宅着工件数	日 日銀政策金利 日 鉱工業生産指数 米 設備稼働率	
19	20	21	22	23	24	25
		米 中古住宅販売	英 消費者物価指数 英 生産者物価指数	米 経常収支 米 製造業・サービス・総合PMI EU首脳会議（～24日）	日 全国消費者物価指数 米 新築住宅販売戸数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	
26	27	28	29	30		
G7首脳会議 （～28日、ドイツ・エルマウ）	米 耐久財受注 米 中古住宅販売成約件数	米 卸売在庫 米 S&Pケースシラー-20 米 CB消費者信頼感指数	米 実質GDP NATO首脳会議 （～30日、スペイン・マドリード）	米 PCEコアデフレーター 米 シカゴ購買部協会PMI WTO紛争解決期間会合		

今週の注目は、米連邦公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合後の黒田日銀総裁会見。

先週は、予想以上の米CPIや、黒田総裁発言などを受けて、ドル買い・株売りが加速している。

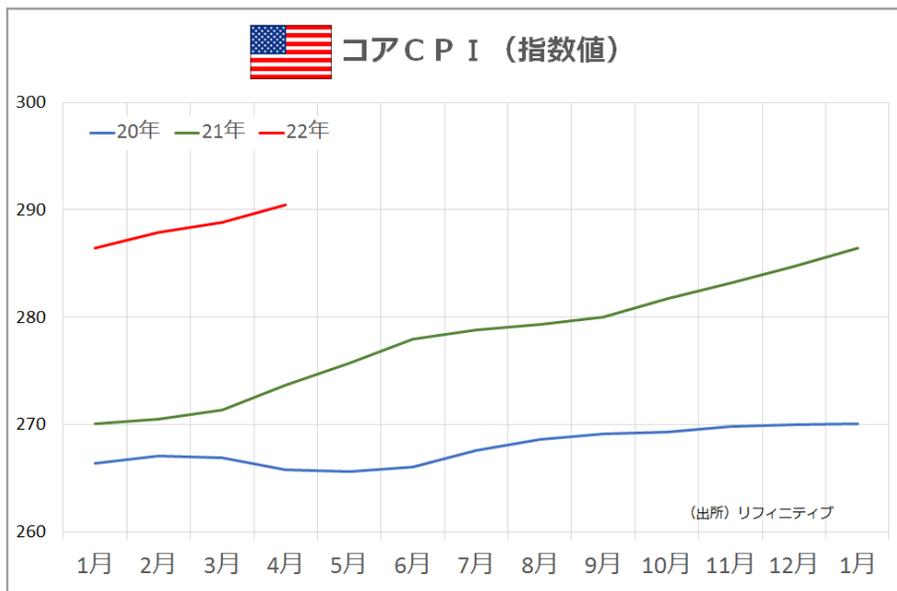
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

前週レビュー・トピックス

～インフレ長期化懸念高まる～

調査課

菊川 弘之



【夏にかけてインフレ高まる可能性】

強気の前週雇用統計に続き、5月の米消費者物価指数(CPI)は、前年同月比8.6%上昇と、4月(8.3%)から伸びが加速し、同月と同じ上昇率を見込んでいた市場予想を上回った。物価の基調をはかる上で重視される前月比でも1.0%上昇と4月(0.3%)から加速し、市場予想(0.7%)を上回った。

インフレ加速を背景に米連邦準備理事会(FRB)が、9月以降も積極的な利上げを進めるとの見方が強まり、米長期金利が上昇している。

市場の一部では、CPIやPCEはすでに頭打ち、徐々にインフレは鎮静化するとの見方もあるが、前年同期比では、時間経過と共に現行から上昇せず、横ばいであれば、前年度比の数値は低下するかもしれないが、絶対的な水準は高いまま。

また、夏場にかけて原油・穀物共に、上値リスクが高い時間が続く。物価指標の更なる上振れもあり得る状態だ。

物価が落ち着くとすれば？

ここから物価指標が落ち着く可能性としては、

- ①利上げとQTのダブルパンチに耐え切れずに米株価が大崩れして、商品需要が急速に落ち込む。
- ②ロシア・ウクライナの停戦合意がなされ、原油・穀物輸出が再開される。

などが、考えられる。

前週末は米株価が大きく崩れており、5月安値の攻防が焦点となる。

「ロシアの日(6/12)」に向けて、ロシア優勢となっており、水面下で始まっている停戦協議再開の動きにも注意したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ドル円 (YEN)

~ 20年ぶりの円安ドル高水準 ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

インフレ加速を背景に米連邦準備理事会 (FRB) が秋以降も積極的な利上げを進めるとの見方が強まり、米長期金利が上昇中。日米の金融政策の違いが着目されやすい中、黒田日銀総裁は8日、フィナンシャル・タイムズ (FT) 主催のイベントで「為替レートは日銀の政策目標ではない」と述べた。日銀は足元の円安進行を警戒せず、金融緩和策を維持する姿勢を示したと受け止められた。

また、欧州中央銀行 (ECB) は9日、7月に量的金融緩和策を終了すると決めた。同月中に政策金利を引き上げ、9月に追加利上げを実施する可能性を示唆した。欧米と日本との金融政策の違いが明確となり、円売りの動きが広がった。

日銀の打つ手は限られる

日銀はイールドカーブ・コントロールで、金利を抑え込んでいる。日銀の経常利益を見ると、国債のクーポン収入が頭打ちとなる中で、上場投資信託 (ETF) の運用益への依存度が年々拡大しており、利上げした場合、日銀は当座預金への付利コストの増加に耐えられない。日銀が負う年度当たりの付利コストは0.2%の利上げで約1兆円。少し、利上げしただけでも、日銀は赤字に転落する。また、我が国の一般会計予算は1000兆円超の国債残高を抱えながら、低金利を維持することで利払い費をわずか年8兆円に抑えていることで、政府は予算を組めているが、この財政運営にも支障が出ると見られる。原油値上げもあり、経常赤字の状態化になっている。

この辺りを材料に、円売りが本格的に仕掛けられた場合、値頃無用の展開となる可能性も。一方、長期的にはドルに対する信任低下によるドル暴落もあり得るが、これが材料視されるのは、かなり先の事。

ドル円は続伸も、米10年債利回りは5月高値水準を上抜けず。同水準の攻防が焦点。米金利が高値更新できなかった場合、135円超えからの踏み上げ等があれば、一旦は「知ったら終い」的な値動きの要想定。一目均衡表からの上値目標値のV=136.36円は、2000年以降の年間値幅の最大値を今年の場合に当てはめた目標値 (136.73円) とも重なる。米10年債の重要変化日は、6月15日。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金 (GOLD)

~200日移動平均線維持~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY金(8月限)は、価格帯別出来高の厚い200日移動平均線水準が下値支持となっている。

前週末は、5月の米CPIが、1981年12月以来の高水準を更新したことでドル買いが強まり、朝方は売りが先行したが、6月の米ミシガン大学消費者信頼感指数が過去最低水準更新。主要な米株価指数が大暴落した事で、長大陽線引け。



NYがネックラインを超えてくると、JPXは4月高値を試す

JPX金は、NY金に先んじて、2日付けの夜間立ち合いで、ネックラインを上抜き、三角もち合い上放れから上げ加速となっている。JPX金先限に続き、マザーマーケットのNY金もネックラインを上抜いてくると、内外共に強気転換が確認され、上昇相場開始の信頼感が高まる。

想定通り、円安の流れも強まっており、既存のコラムやレポートで繰り返し述べてきたように「円建て金を保有する」優位性が高まっている。心理的節目8000円~4月高値を試す場面も出てきそうだ。

6月からのQT開始に伴う「債券需給悪化・金利上昇」圧力はあるものの、金利上昇とQTのダブルパンチによる実体経済への悪影響は避けられず、米マクロ経済指標の堅調の継続性は疑問だ。既に、米国に続いて欧州の出口戦略開始も決定した事を嫌気して株価は崩れ始めている。5月安値を維持できないと、株価のテクニカル的な追随売りも出てきそうだ。

リーマンショック時は、株価下落の損失補填的な売りで、金も追随安となったが、その後の戻りは金が最も大きく、最も早かった。一時的な順相関は、下げ一巡後は本来の逆相関に戻った。

インフレは高止まりしてており、原油価格の上昇にも陰りが見えない中、金利上昇が続いたとしても、株価の下落を伴う「悪い金利上昇」となる可能性が高く、この場合は、「金利上昇・金相場も上昇」となるだろう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金(Platinum)

~株価下落を嫌気~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

世界経済見直し
下方修正

先週レポートで「株売り圧力が大きく高まった場合は、「金買い・白金売り」に転じる可能性も」としたが、「白金一金」の鞘は、「金買い・白金売り」に転じた。

世界銀行は7日発表した最新の世界経済見通しで、2022年の世界全体の実質成長率を2.9%と予測。1月予測から1.2ポイント下方修正。本格的な不況が回避できても、物価高騰と景気停滞が同時に起こるスタグフレーションの苦しみがある」と警告した。



また、経済協力開発機構(OECD)経済見通しで、今年の世界経済成長率を3%と予測し、12月時点の4.5%から大幅に下方修正した。ウクライナ戦争の影響が響いた格好だが、NY白金は株価下落もあり、1000ドル台を維持できず。CMEのフェドウォッチによると、6、7月のFRBの大幅利上げが織り込まれており、9月以降の見通しと、「利上げ+QT」のダブルパンチに株価が耐えうるか否かが焦点。

1日には、JPモルガン・チェースのジェイミー・ダイモン最高経営責任者(CEO)が「FRBとウクライナ由来で最大級となる可能性があるハリケーンに備えよ。我が社も様々な備えを強化している」と警告を発している。

NYは再び、900-1000ドルのレンジ放れ待ちとなっている。

一方、JPX白金は、円安進行で、心理的節目4000円台は維持。NYと比べて下値は限定的となっている。

6月からロックダウン(都市封鎖)が解除されたばかりの上海市で、大半の市民を対象に新型コロナウイルスの集団検査が実施される。市当局は9日、市内16地区のうち複数の感染者が確認された7地区で、全住民を対象に週末にPCR検査を実施すると発表した。検査が行われる間、住民が外出を制限される地区もあり、再ロックダウン懸念も上値抑制要因。米株価動向、ロシア・ウクライナ停戦協議動向と共に、中国の感染拡大動向にも注意したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴム (RSS 3号)

～上海ロックダウン再開懸念～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

中国税関総署が9日に公表した5月の貿易統計によると、ドル建て輸出は前年比16.9%増加し、伸び率は事前予想を上回った。輸入も4.1%増加し、3カ月ぶりに拡大。

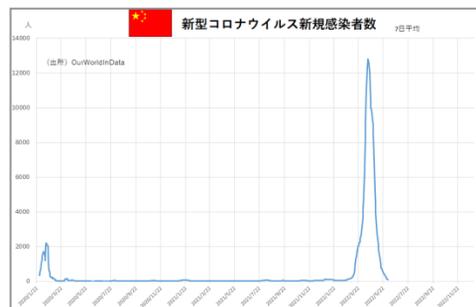
新型コロナウイルス規制緩和に伴い生産活動が再開し、物流の停滞が解消されたことが背景。

中国乗用車協会(CPCA)が発表した速報値によると、5月の乗用小売販売台数は前月比30%増の135万台となった。新型コロナウイルス対策で落ち込んだ市場の回復に向け、当局が刺激策を展開したことが背景。

一方、5月の中国PPIは、前年比6.4%上昇となり、伸び率は前月の8.0%から鈍化。伸び率は7カ月連続で鈍化したものの、資源高を背景に高止まりが続いている。CPIは前年同月比2.1%上昇。ロシアのウクライナ侵攻に伴う原油高や食料品の値上がりを反映した。

現物価格は、天候不順の影響もあってか集荷が鈍いが、株価が更に崩れてくると、上値は抑えられ易い地合いが内外共に見られそうだ。

株価が崩れると
上値が抑えられる



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

穀物(大豆・コーン)

~高温乾燥懸念~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

米農務省(USDA)需給報告で21/22年度の米国の需給見通しでは供給項目は全て前月と同量に据え置かれたが、輸出量予測が前月時点の21億4000万Buから21億7000万Buに引き上げられたため、期末在庫率予測は前月時点の5.3%から4.6%に引き下げられた。

22/23年度米需給見通しは、期初在庫予測が前月時点から3000万Bu引き下げられた2億0500万Buとされた以外、供給項目、需要項目共に前月から据え置かれた。ただ、期初在庫量予測の引き下げが期末在庫量の下方修正に直結したことから期末在庫率予測は前月時点の6.8%から6.1%に下方修正された。

一方、21/22年度のコーン需給予測は食品・種・工業用の需要が500万Bu引き上げられたが、輸出用が5000万Bu引き下げられた結果、期末在庫率予測は前月時点の9.6%から10.0%に引き上げられた。

22/23年度の米国需給予測のうち生産量見通しは前月と同量の144億6000万Buに据え置き。その一方で食品・種・工業用の需要が500万Bu引き上げられたが、それ以外の需要見通しの修正はなく、期末在庫率予測は前月時点の9.3%から9.6%に上方修正された。

5日時点のコーン発芽率は78%。平年の81%より3ポイントの遅れだが、この程度の遅れであれば挽回可能。今回、今年1回目の作柄報告の発表があった。全米18州の生産州で「良」以上は73%。天候相場の滑り出しとしては悪くない数字。

作柄悪化リスクは残る

受粉期を迎える7月後半まで中西部産地の天候に一喜一憂する日が続く。米気象庁(NWS)発表の最新の6-10日予報はコーンベルト全域で気温が平年を上回り、降水量が下回るとの予報。高温乾燥傾向の兆し。今年はラニーニャ現象の長期化により北米が高温乾燥の天候となる可能性がある。

生育期の米中西部の天候が高温乾燥になれば、作柄悪化となるリスクは残ったまま。北米の夏場天候は平年より高温乾燥になる可能性があり、土壌水分不足による生育不良、作柄悪化には警戒したい。

リード役であった小麦が、修正となっている。ロシア・ウクライナ停戦合意の可能性を先取りしている可能性もあり、要注意。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

原油(OIL)

~株価下落は弱気も、需給タイト感強い~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY原油は三角保合いを上放れて上げ加速。V=123.16ドル達成。価格帯別出来高の厚い110ドル水準を下値支持として、E=129.47ドル~3月高値(130.5ドル)を試す流れ継続。

米エネルギー情報局(EIA)週報では、原油在庫は前週比202万5000バレル増の4億1676万バレルとなったが、米戦略石油備蓄(SPR)放出を映したもので弱材料視されなかった。SPR自体が5億1932万3000バレルと、1987年以来の低在庫水準となっており、反対に投機筋に見透かされている格好だ。

オクラホマ州クッシング原油在庫は159万3000バレル減の2344万バレルだった。また、ガソリン在庫は81万2000バレル減の2億1818万4000バレル。これは昨年11月以来の低水準。なお製油所稼働率が今年最高の94.2%となっており、需要の旺盛さを映している。

イラン強硬姿勢崩さず

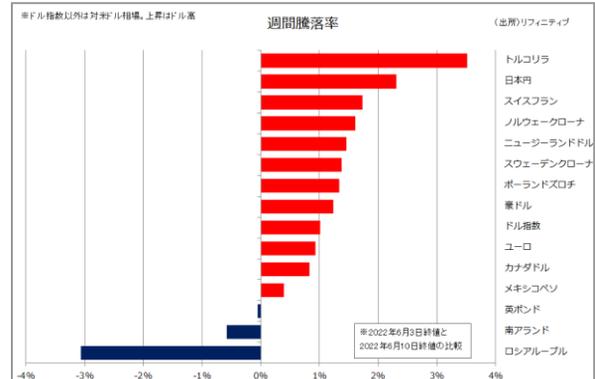
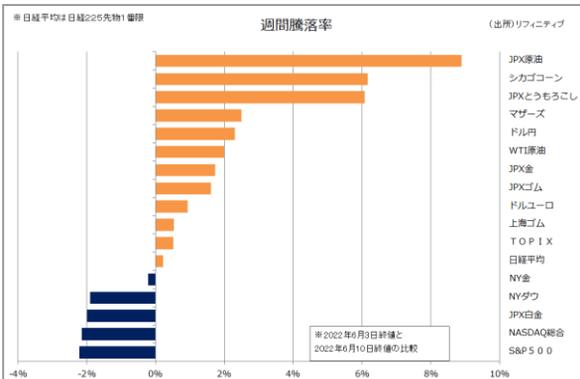
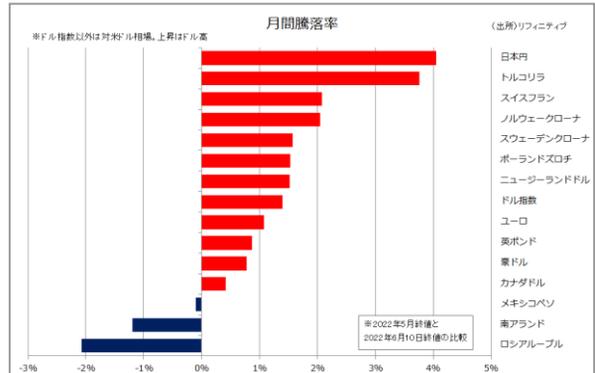
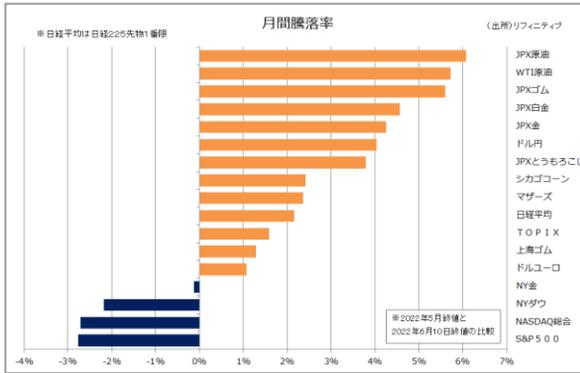
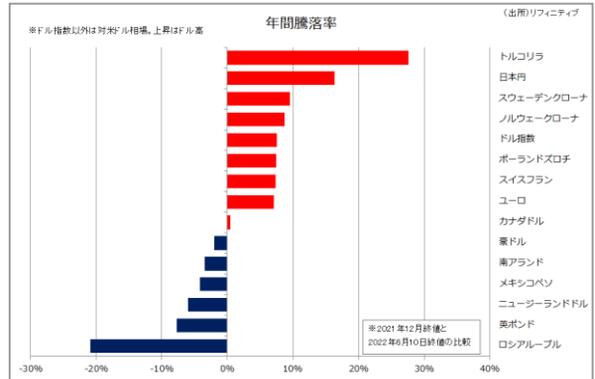
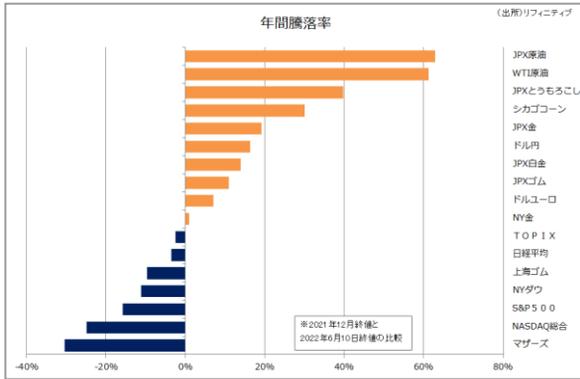
国際原子力機関(IAEA)理事会は8日、イランに対する非難決議を賛成多数で採択した。35カ国で構成する理事会で決議に反対したのは、ロシアと中国のみ。

イランと米国は昨年4月、合意再建に向け交渉を開始。一時は妥結間近との観測も浮上したが、イラン最高指導者ハメネイ師直属の革命防衛隊をめぐり、イラン側が要求したテロ組織指定解除を米国は拒否。双方の溝は深く、交渉は今年3月の中断後、再開の兆しすら見えていない中、イランは国際原子力機関(IAEA)理事会で米欧主導の対イラン非難決議が採択されたことに猛反発。イランは対抗措置を打ち出している。監視カメラ27台の撤去に加え、核兵器に必要な高濃縮ウラン製造のための最新鋭遠心分離機の増設も表明。核開発強化で米欧を揺さぶる構えを崩していない。保守強硬派のライシ大統領は9日、「決議を採択すれば譲歩すると思ったのか。われわれは一步も引かない」と主張している。

「OPECプラス」の増産前倒しも、ロシア産減産を維持できない中、株価の下落や中国の再ロックダウン懸念が上値抑制要因だが、需給タイト感は短期的には解消することは困難で、ロシア・ウクライナの停戦などのヘッドラインで下押す場面があっても、下値は限定的。リベンジトリップに伴うジェット燃料需要増加や、ハリケーンリスクなどもあり、高値止まりとなりそうだ。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(年間・月間・週間)】



【米ガソリン小売価格】



【米CPI】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

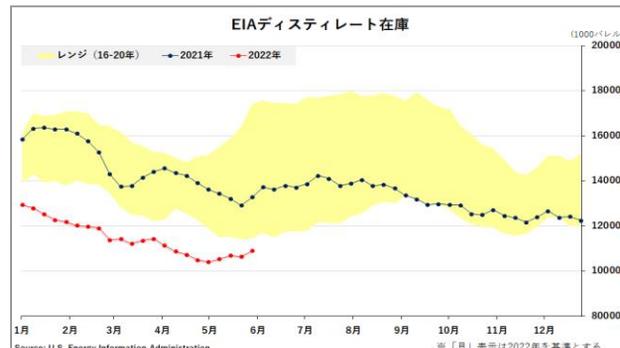
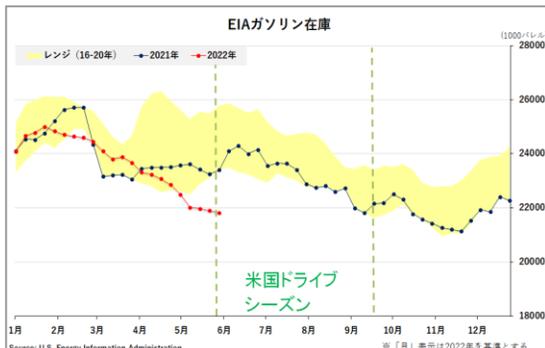
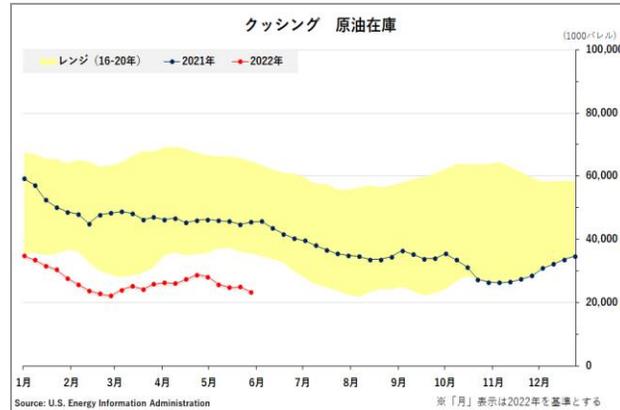
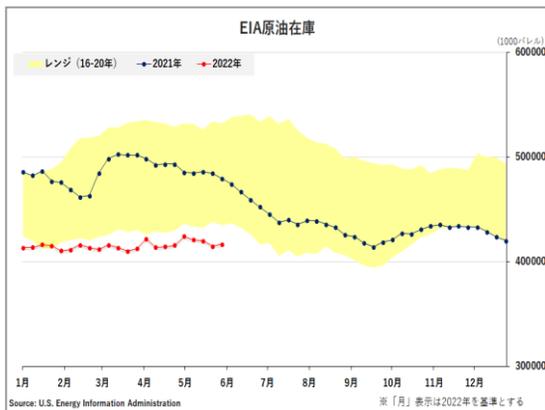


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/6/10	1068.87	+3.48
2022/6/9	1065.39	±0
2022/6/8	1065.39	+2.32
2022/6/7	1063.07	±0
2022/6/6	1063.07	-2.97
2022/6/3	1066.04	±0
2022/6/2	1066.04	-1.16



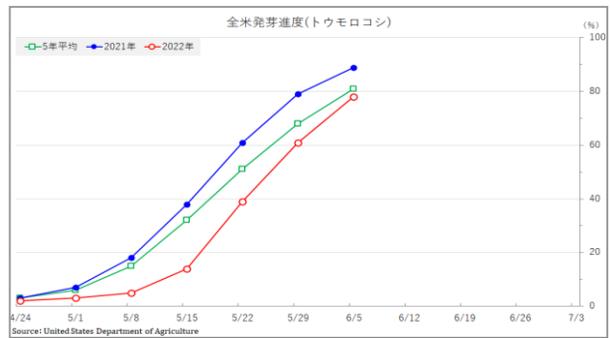
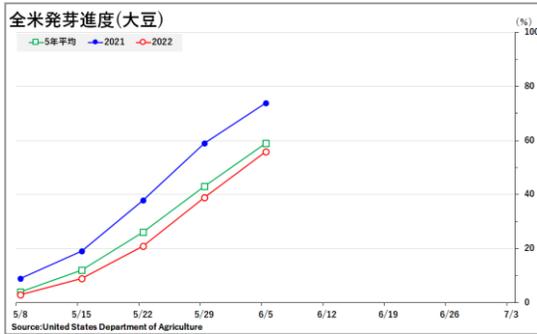
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/6/10	75,045.56	±0
2022/6/9	75,045.56	-0.25
2022/6/8	75,045.81	-0.03
2022/6/7	75,045.84	+78.23
2022/6/6	74,967.62	+29.42
2022/6/3	74,938.19	±0
2022/6/2	74,938.19	-0.09

【EIA在庫】

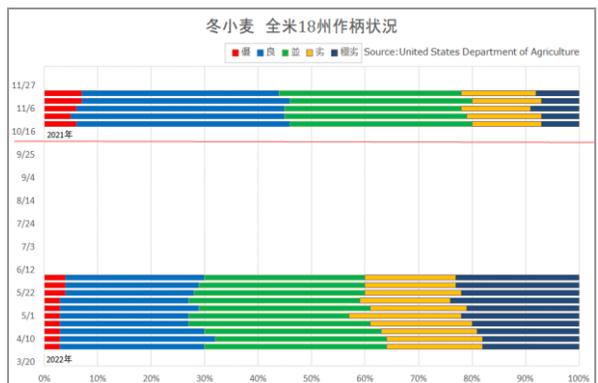
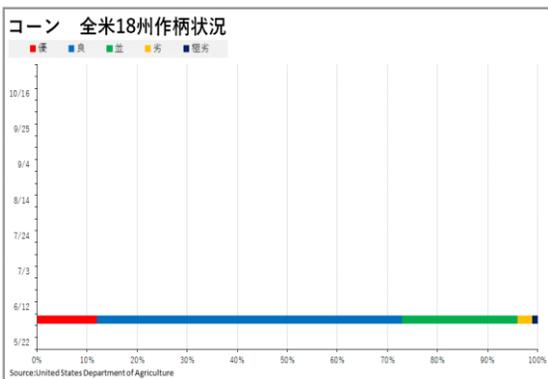


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

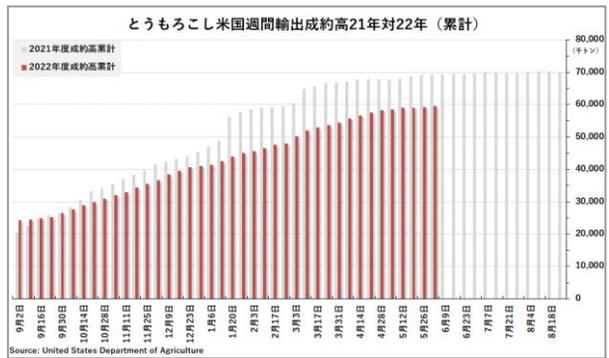
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



【USDA作柄(冬小麦・コーン)】



【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【米産大豆期末在庫率】



【米産コーン期末在庫率】

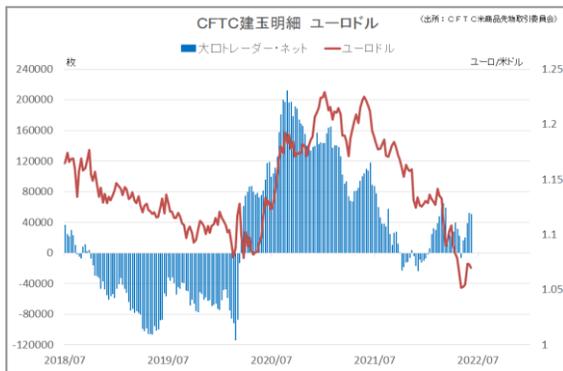


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

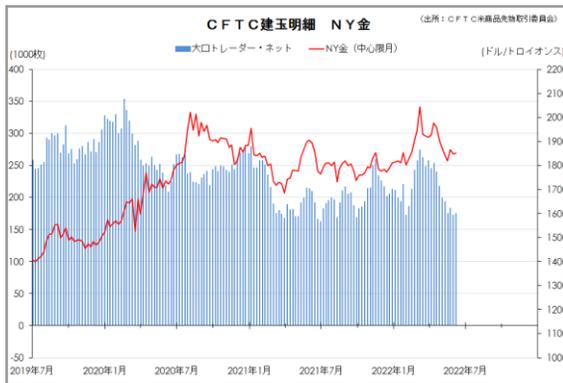
【CFTC建玉明細】



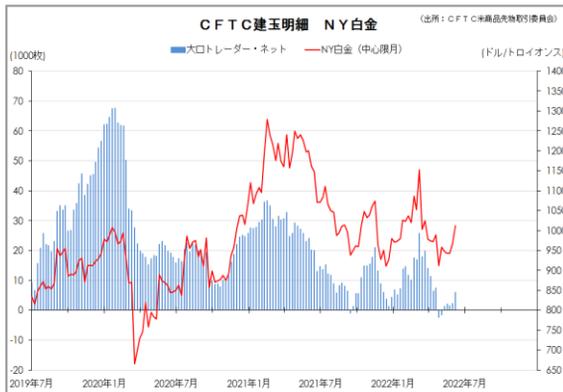
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	11,196	121,650	-110,454	130.43
2022/5/17	12,113	114,422	-102,309	129.39
2022/5/24	16,567	116,011	-99,444	126.8
2022/5/31	15,201	109,640	-94,439	128.68
2022/6/7	18,466	110,112	-91,646	132.58
前週比	3,265	472	2,793	3.90



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	228,230	211,701	16,529	1.0527
2022/5/17	230,770	210,431	20,339	1.0547
2022/5/24	237,072	198,142	38,930	1.0734
2022/5/31	236,553	184,281	52,272	1.0733
2022/6/7	230,248	179,705	50,543	1.0699
前週比	-6,305	-4,576	-1,729	-0.0034



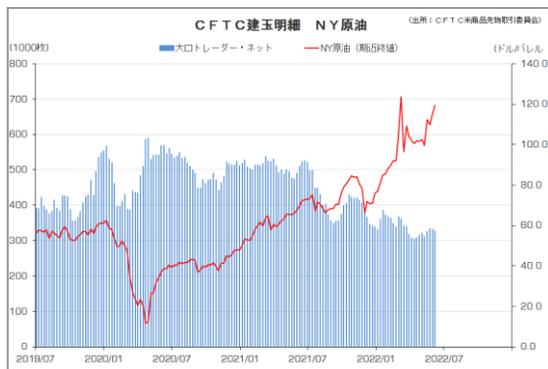
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	288,947	95,632	193,315	1841
2022/5/17	283,011	107,651	175,360	1818.9
2022/5/24	282,202	98,389	183,813	1865.4
2022/5/31	269,459	96,870	172,589	1848.4
2022/6/7	270,356	95,088	175,268	1852.1
前週比	897	-1,782	2,679	3.7



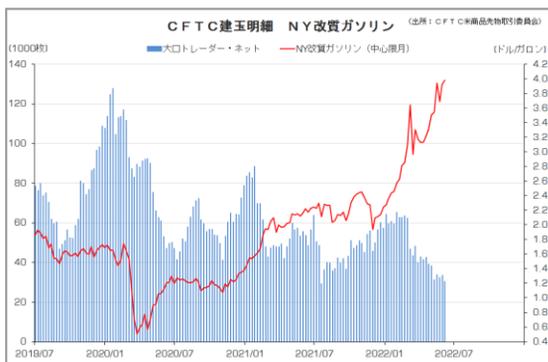
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	28,774	27,411	1,363	947.2
2022/5/17	28,253	26,050	2,203	943.4
2022/5/24	26,052	24,567	1,485	942.9
2022/5/31	27,226	24,863	2,363	968.3
2022/6/7	27,004	21,071	5,933	1012.9
前週比	-222	-3,792	3,570	44.6

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

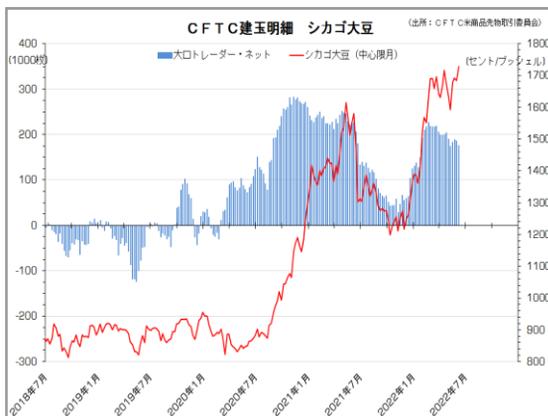
【CFTC建玉明細】



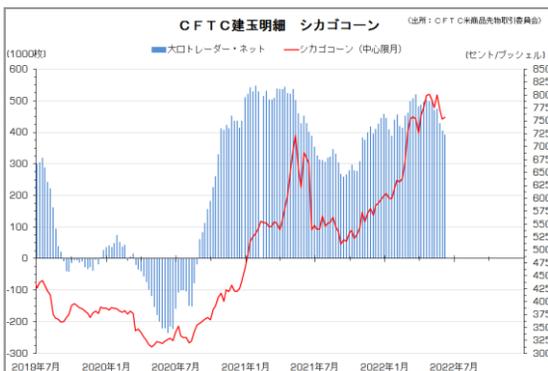
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	415,170	104,367	310,803	99.76
2022/5/17	416,190	90,553	325,637	112.40
2022/5/24	422,541	87,780	334,761	109.77
2022/5/31	421,683	88,707	332,976	114.67
2022/6/7	423,882	95,626	328,256	119.41
前週比	2,199	6,919	-4,720	4.74



日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	73,929	42,551	31,378	3.5415
2022/5/17	75,744	41,946	33,798	3.9417
2022/5/24	72,517	40,092	32,425	3.6897
2022/5/31	76,089	42,399	33,690	3.9162
2022/6/7	75,841	45,353	30,488	3.9788
前週比	-248	2,954	-3,202	0.0626



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	225,260	50,652	174,608	1592.25
2022/5/17	231,911	48,264	183,647	1678.00
2022/5/24	236,164	47,796	188,368	1693.00
2022/5/31	237,836	51,758	186,078	1683.25
2022/6/7	229,895	53,251	176,644	1728.25
前週比	-7,941	1,493	-9,434	45.00



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/10	573,327	102,419	470,908	775.25
2022/5/17	589,352	115,609	473,743	800.75
2022/5/24	563,850	136,002	427,848	771.75
2022/5/31	551,849	147,649	404,200	753.50
2022/6/7	520,783	129,519	391,264	757.00
前週比	-31,066	-18,130	-12,936	3.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。